

< もくじ >	
1. 2025年度連続講座第2回の結果報告	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 各研究会の概要報告	3
4. 事務局からのお知らせとお願い	5

1. 2025年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵 Part4」第2回の結果報告

■第2回テーマ：「超高齢社会のおカネと相続/死後事務～Advance Life Planning のススメ～」

1) 日時：10月18日（土） 14：00～16：00

2) 講師：谷口 佳充（三井住友信託銀行 人生100年応援部特別理事、
法制審議会民法〈遺言関係〉部会委員

3) 参加人数：会場19名、オンライン8名
（会員19名、団体会員1名、非会員7名）

<概要報告>

我々は既に、死亡年齢最頻値が女性92歳、男性88歳の時代、最も多い世帯形態がおひとりさまである時代に暮らしています。また例えば、90歳以上の女性の認知症有病率が55%である等、人生に判断能力低下の期間がある時代でもあります。

このような中、東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）のアドバンスライフプランニング調査にあるように、より良い人生、周囲の負担も少なくする人生をおくる為に、事前にそなえることの重要性が高まっています。

今回は、事前のそなえで大切な領域を3つ紹介します。

①判断能力低下への対応

判断能力が低下すると、自分のおカネや住宅を管理しづらくなり、場合によっては凍結されたり、ゴミ屋敷となったりします。我々には、代理、信託、後見などのそなえるツールがあり、これらにより判断能力低下後も自分の思う生活が可能です。具体的には対象や費用などの組み合わせにより、銀行等の予約型代理サービス、信託銀行の信託サービス、民事（家族）信託、任意後見があります。例えばとりあえずおカネから、前2者から始めてみることで効果が出ます。

②おひとりさまの準備

長寿で配偶者死亡後の期間が長くなっており、また結婚をしない人、離婚する人も増えている中、頼りになる家族や親族が遠居であることも多くなっていますので、身元保証、生活支援、死後事務などいわゆる終身サポートのそなえが有用です。

③住まいと人生のマッチング

皆さんの住まいの多くは、予算の中で、子育て、教育や通勤を重視して選択されているはずです。老後になると筋肉も日々少なくなり、骨粗鬆症にもなります。体を180度等回転させることが転倒につながり易くなる中、頻尿で夜間のトイレへの行き来が増えます。また断熱も日本は規制が緩かったため、冬のヒートショック、夏の熱中症のリスク削減には断熱リフォームが必要にな



るなど、健康寿命延伸のため、生活習慣改善とともに、生活環境である住まいをリフォームか住み替えるかして改良することが有効です。

博報堂人生 100 年生活研究所の調査によれば、日本人だけが、平均寿命よりも短い寿命を望んでいると言われています。悲しいことです。まずは一人一人が、人生 100 年時代にそなえることで、本人が幸せな人生をおくることが、歳を重ねることを寿ぐ社会に戻る第一歩だと思います。

(谷口佳充 記)

以下、参加者の感想の一部を、アンケートの下記の質問に対する回答よりご紹介します。

【問 3-1】「今回の講座で、特に関心を持たれたのはどのようなところですか。」

- * とても分かり易くすばらしい内容で、大変に役に立ちました。本当にありがとうございました！
(90 歳代 男性)
- * 自分自身 (50 代) にとっても、他人事ではないが、短期的には親 (80 代) について元気なうちに対策していくべきことが沢山ありそうと痛感した。(50 歳代 ー)
- * 年齢的に、死後の葬儀・遺産の配分等大変参考になる講義でした。帰宅してもう一度学び直し理解を深めたいと思います。ありがとうございました。(80 歳代 女性)
- * 相続、死後事務、準備が大切ですね！質問もさせていただき、ありがとうございました。(60 歳代 女性)
- * お一人様として、どのような相続の手続きをしておけばよいか。／住居の相続はどのようにするか (いろいろな方法)。／民事信託、代理人について (80 歳代 ー)
- * 認知症になる前にきちんと子供を任意後見人にしておくこと。しつつ先送りにしてしまうので。(70 歳代 女性)
- * 他人事でないテーマであり、大変勉強になりました。特に「住まい」について改めて見直したいと思います。(80 歳代 男性)
- * 住宅の改良の必要性を痛感致しました。(80 歳代 女性)
- * 超高齢化社会になっている日本なのに、幸せ度が低くなっているという事 (70 歳代 女性)
- * 死亡年齢最頻値など一般論に関心がありました。(60 歳代 男性)

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第175回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年11月19日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：谷口 優 国立環境研究所主任研究員
 - 3) テーマ：「なぜ犬と暮らす人は長生きなのか」
 - 4) オンラインで開催いたします。
- ※ 参加を希望される方は、阿部 (fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) にご連絡ください。
資料をお送りいたします。
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(2) 第62回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年11月22日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：YNS やまぶき任意後見、アワーズ、シニア学会員
- 4) テーマ：人形劇その他

劇団 ^{びしょうざ}「B笑座」

認知症を可視化し、人形劇、寸劇などを行います。劇団員募集しています。

※ お問い合わせは、鈴木 真澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) までお願い致します。

(3) 第67回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年11月26日（水） 17：30～19：30 Zoom 開催
 - 2) テーマ：精神分析の世界と私
担当・岡田慶子（臨床心理士）
- ※ ご連絡ご質問は、中村昌子（nakamurayoshiko6@gmail.com）までお願いします。

(4) 第111回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ（再掲）

- 1) 日時：2025年12月18日（木） 15：00～18：00
注：11月の研究会は都合により休会
 - 2) 会場：早稲田大学国際会議場 4階第7共同研究室
 - 3) テーマ：「バーソンのAGIL 図式に基づくコミュニティ分析」
 - 4) 発表者：太下勝巳
 - 5) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村（ken-sima@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第110回「シニア社会のリテラシー」研究会報告要旨

- 1) 開催日時：2025年10月6日（月） 15：00～18：00
- 2) 会場：早稲田大学国際会議場 第7共同研究室 出席者6名
- 3) テーマ：「コミュニティにおける社会関係資本形成の実際」
- 4) 発表者と題目：安田和紘『社会関係資本の蓄積と活性化』。最初に社会関係資本の定義を提示。
閉鎖的ネットワークやリーダーの専横の解消、意志決定プロセスの透明性、心理的安全性の確保が形成要件となる。また、個人と社会の発達の相互作用が社会資本の持続的発展を促す。具体的事例として、居住する「あざみ野団地に於ける多種多彩な活動」を紹介。
本田恭助『自宅マンションのシニアクラブの実例紹介』：主導している自宅マンションの「シニアクラブ」の活動実態を2つの視点、11の切り口から分析して報告。活動目的は、閉鎖的かつ高齢化するマンションだからこそ高齢者が助け合い暮らしやすいマンションにすること。「雑談会」、「定期的な会合」に加え、外部の力も借りて信頼の醸成を行っている。試行錯誤、改善を重ねていく過程で利他性が育まれ協働行為に繋がる。LINE で情報交換、またイベントでの顔合わせで気軽に話し合う関係が出来つつある。雑談やイベント、勉強会等を通じやってみよう精神の中から互いの信頼が醸成されている。今後、住民アンケートを実施、さらに市との協力関係を密にしたい。
- 5) 意見交換：活発な意見が飛び交った。地域への満足感、誇り、帰属意識の高まりにより地域 Identity が形成され、隣人愛・協働・互酬性の循環がみられる等。
- 6) 濱口座長のコメント：発表から地域コミュニティ活動の豊富な事例が得られたのが収穫。次は集団からのアプローチ、「集団分析はどうあるべきか」の考察があってもよい。バーソンのAGIL 図式が参考になるでしょう。（安田和紘 記）

(2) 第174回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2025年10月22日（水） 18：00～20：20
- 2) 報告者：駒村康平 慶応義塾大学経済学部教授
- 3) テーマ：「高齢者・介護関連サービス産業振興に関する検討会」から「商助」を考える
- 4) 参加人数：13名
経済産業省の報告書(2025年5月28日)を中心に、民間企業が介護保険外のサービスを含む多様なサービスを提供すること（商助）による地域づくりの可能性をさぐる。今日、福祉視点だけでは限界があるため、産業振興(ビジネス)と福祉を両立させる産福共創モデルを構築し、家族介護者の負担軽減と介護離職の防止、高齢者自身の自立とQOLの向上、介護人材の負担軽減を図る。しかし自治体には民間企業と連携することに抵抗感があり、そのメリットを理解してい

ない。さらに自治体では首長や担当者が替わると事業が中断してしまい継続が困難である。

「商助」の一例として、自治体が金融機関を巻き込むという方法があり、墨田区では実施されている。とりわけ地域に根差した信用金庫の果たす役割は大きく、認知機能の低下した高齢者の金銭管理や詐欺に遭うことを防ぐことができる。

高齢になるほど自信過剰になるため、騙されやすく、騙されたことにも気がつかない。お金があれば老後は安泰と思っている人が多いが、持っているお金が使えない恐れがある。変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が増す現代社会では、福祉を公的支援にのみ頼ることは不可能であり、産業と福祉が連携することによって、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を実現することができる。

参加者からは、家族のいない人が増えている今日、誰が金銭管理の支援をするのか、地域資源の欠けている過疎地ではどのようにして商助を実現するのかなどの質問があったが、今のところ適切な解決策は見いだされていないようだ。（袖井孝子 記）

（3）第79回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2025年10月22日（水） 18:00～20:00
- 2) 報告者：カルメン・グラウ（地域社会と危機管理研究所 招聘研究員）
- 3) タイトル：「バレンシアにおける水害管理：【第2回調査】洪水対策改善と国際会議参加」
- 4) 場 所：早稲田大学26号館1102会議室

バレンシアにおける水害管理に関する第2回調査の報告を行った。報告の内容は洪水対策の改善と国際会議参加についてである。洪水対策の改善では、水害で被災した3つの市町村において調査を実施した。被災地をバレンシア市周辺、バレンシア南部、バレンシア内陸部の3地域に大別し、洪水対策の改善について方法論と計画については、洪水対策計画の見直し、行政の対象者などへの半構造化インタビュー、新規プロトコルの策定、改善計画の策定を実施することとした。そこで浮き彫りになった課題として、緊急時の対応計画や責任者が把握されていなかった、避難所が整備されていなかった、避難訓練が十分に行われていなかった、市民の防災意識の不足などが挙げられた。洪水対策の改善として災害弱者のための避難手順を導入、とくにジェンダー視点を取り入れ、保育所や教育機関のニーズを把握し、女性の活躍の場や女性の居場所をつくり、ジェンダーに基づく暴力を防ぐなどの提案を行った。日本では朝日新聞が本調査について報道した。国際会議参加では2025年7月にドイツのセミナーにおいてスペインの防災教育及び気候変動教育について講演し、9月にカーディフ大学で開催された英国日本研究協会主催の国際会議で日本の災害対応の知見のジェンダー視点のバレンシアでの適用について講演した。今後の活動としてはバレンシア州ガンディア市でバレンシア大学、バレンシア工科大学、ガンデディア市役所、アルフォンスエルベル地域研究センターの共催で開催されるScience Weekに参加する予定である。（松村治 記）

（4）第61回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2025年10月25日（土） 18:30～20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）
- 4) テーマ：人形劇、その他（鈴木眞澄 記）

（5）第66回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日時：2025年10月29日（水） 17:30～19:30 Zoom 開催
- 2) テーマ：おばちゃん力と共に生きる
担当・栗野牧子（岩手県北上市 小学校教師リタイア後、農業従事者）
- 3) テーマ設定の理由：

高齢者、シニア世代、団塊世代、全共闘世代等を括る用語は、公的機関や論じる番組で多く出てくる。一方で雑誌や日常生活で浮上し耳にするのは「おばちゃん」である。明確な定義はない。しかしたくましい生活力や精神力が語られる時、「おばちゃん」は動き出す。自分の中で年々増して

きている「おばちゃん的言動」の事例から、状況や行動を振り返り、後の社会生活を送る手掛かりとしていきたいと考え、本テーマを設定した。

4) 提供した話題：

- ・余計な介入で事態を複雑にする入門期の落とし穴ーコロナ禍での「お花」を巡る解釈の違い。
- ・旅先での出会い。・気になる若い世代の労働環境。・男女を意識せず元同僚と語り合える開放感。
- ・おばちゃん力が協同に生きる期待ー地域行事での見事な動き。・豹柄ー多くの傷痕は豹柄となり人生模様となっている。
- ・自己開示への応答ー高揚感ある客と対応しきれてない店側は自分の姿でもあった。等の話題を提供し、参加者の皆さまから、それぞれの視点や感じ方を共有いただいた。たとえば、「おばちゃん」という言葉の持つ意味合いについては、「かくありたい自分」との距離が語られた。また、「括られる像の中の自分」ではなく、「個としての自分を生きていきたい」という感想も寄せられた。

5) 意見交換からの気づき

定年後すっかり終わった人という気分であった。評価からの開放感もあり、あとは、こだわりを小さく薄くして「おばちゃん」を楽しみながら過ごしていければと過ごしてきた。「おばちゃん」といっても定型があるわけではない。いただいた気づきを今後の意思ある社会との関係性に繋げていきたい。

(栗野牧子 記)

4. 事務局からのお知らせとお願い

◆広報活動を開始。提言を社会に広く発信します。

シニア社会学会はこれまで、高齢化社会に向けて数々の提言を行ってきました。しかし、これらの活動内容を社会に発信する機能が弱く、せっかくの提言がマスコミなどに取り上げられたり、話題になったりすることはありませんでした。それゆえ、学会の認知度も上がりませんでした。そこで、第二期長期検討委員会活動の一環として、会員による広報担当を置き、活動状況を世間に発信していくことにします。準備期間を経て本格始動は2026年4月からを予定。

- 1) 目的：①学会の認知度・価値を上げる。②スポンサーを探す。③新規加入会員を増やす。④他団体との協業強化など。
- 2) 発信内容：初年度は、大会・総会、連続講座、各研究会レポート、合同イベントなどの活動状況を都度発信する。
- 3) 発信先：新聞社、放送局、出版社、企業、団体、大学、シンクタンクなどで高齢化問題に関心のある部署、媒体のメディアリストをつくる。プレスリリース配信サービスは無料のものを使用。
- 4) 発信方法：郵送、ファクス、メール、SNS (Facebook、Instagram、X、line、Youtube、TikTok など)。媒体によって送り方を変える。

★アンケートを募集します

広報活動を始めるにあたり、皆様のご意見やご提案、メディアとの関係などお寄せください。とくに送り先のメディアリストは大事な割には情報が少ないため、「〇〇新聞社の記者と親しい」とか、「△△協会の理事なら協力してくれそう」などの個別情報は歓迎です。SNSに詳しい方、広報活動を一緒にやってくださる会員も大募集します。広報活動は始まったばかりで、まだまだ手探り状態です。活動には皆様のご理解とご協力が不可欠ですので、以下のアンケートでいろいろなご意見やご提案、情報をお知らせくださるようお願いいたします。

(柴本淑子 記)

※アンケートはこちらのURL よりご回答ください。

<https://forms.gle/1vDYp6Jks733baQn9>

＜会員情報変更時のご連絡のお願い＞

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

＜2025年12月JAAS Newsの発行日＞

次回JAAS News第316号の発行日は、2025年12月17日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、12月12日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

JAAS News 編集長 松島悦子

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>